



◆其の八十二 二千年の歴史を持つ 住宅地？？？

現在、約10000戸以上の住宅が建ち並び、3300人以上の人たちが暮らす光が丘団地は、昭和57年に、宅地開発が始まりました。当時は、山林の中に畑地が点在する状態でしたが、今や一大住宅地となっております。

しかし、この住宅地が、実は二千年の歴史をもっていることをご存知でしょうか。最初に宅地開発されたのは弥生時代になります。現在は、2階建ての住宅が主ですが、当時の一般的な住宅は、地面を掘り込み柱を建て屋根をかけた竪穴住居でした。

光が丘団地の開発に伴う発掘調査では、弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居跡が大量に見つかっています。弥生時代の主には中期から後期の終わりごろにかけての約400年間に1000軒以上もの住居がつけられていました。

住居の数が分かると、当時どのくらい人たちが住んでいたのか気になるところです。

発掘調査では、住居跡だけではなく、当時の人たちが埋葬された甕棺墓(かめかんぼ)が約1400基見つかっています。その特徴から、弥生時代の主に中期から後期(約300年間)のものが中心で、少なくともこの期間に延べ1400人以上の人がこのムラに暮らしていたことは間違いありません。

このように光が丘団地は、弥生時代から「ちくしの」有数の一大住宅地であったのです。

現在も人口が増えつづける「ちくしの」は、二千年前に住みたい「ムラ」ランキングがあれば上位にランキングされたかもしれません。



現在の光が丘1・4・5丁目付近

関文化財課

